

# 平成29年度 中小企業活性化施策の実施状況に関する主な意見

検証対象施策	主な意見
12条 創業、経営の革新等の促進	
1. 起業化総合支援事業	<p>○起業家塾は事業計画を作成する重要な機会であり、参加者をもっと増やすことが必要だ。</p> <p>○現在の起業家塾の内容は専門性が高く、専門用語が多く使われており、参加のハードルが高い印象がある。現在の起業家塾に加え、若者が参加しやすいような簡単な内容のプログラムもあれば参加しやすくなるのではないかな。</p> <p>○難しい内容や厳しい指導だけではなく、起業したい人や若い人をその気にさせるような支援の方策も有効なのではないかな。</p> <p>○新たに作られるワンストップ拠点のほか、北部エリア等においても駅前近くの場所で起業について学べ、若い人が集まる場所ができれば、地域の商店街、商店主の刺激にもなり、まちの活性化に繋がるのではないかな。</p> <p>○起業に興味関心を持っている人たちに施策の情報を効果的に届ける方策を検討することが重要だ。</p>
2. 新川崎・創造のもり推進事業 (KBIC、K <sup>2</sup> 、NANOIC、AIRBIC)	<p>○最初のK<sup>2</sup>タウンキャンパスの設立には地元企業も関わったが、AIRBIC建設においては地元企業が入り込む余地が無かった。地元企業にも恩恵が回るような仕組みづくりが必要ではないかな。</p> <p>○来年度のAIRBICの概成をもって新川崎・創造のもりは完成するが、まちづくりの観点から考えると周辺商業施設や住居との一体性があまりないようだ。地元と連携する機会があれば良いのではないかな。</p> <p>○オープン・イノベーションの拠点形成という目的に向け、創造のもりに立地する大企業の考えを中小企業にも共有することが重要である。大企業の地元への貢献が見えてくると良い。</p> <p>○殿町キングスカイフロントについても同様だが、創造のもりやキングスカイフロントと地元中小企業がつながるような取組が求められる。</p>
3. ウェルフェアイノベーション推進事業	<p>○ケアマネージャー等の介護福祉者や福祉用具企業への周知が不十分だと思われるので、取組をより周知していく必要がある。また、高齢者が訪れる区役所の窓口に製品を置いたりしているようだが、ただ置くのではなく、製品の特徴を説明すると良いのではないかな。</p> <p>○ピープルデザイン研究所と連携し、例えばどのようにPRすれば効果的だとか考えるか、障がい者の方に聞いてみると良いのではないかな。</p> <p>○健常者でも福祉は必要になるなので、広く健常者にもPRした方が良い。また障がいをもつ子ども達への視点も必要ではないかな。</p> <p>○情報発信の機会であるフォーラムの開催回数が削減されているので、フォーラムに代わる別の発信・交流イベントを開催してはどうか。</p>
4. ソーシャルビジネス振興事業	<p>○ソーシャルビジネスの相談窓口やセミナー等の情報を初めて知った。興味・関心を持つ人に情報を届けることがとても重要だと思う。</p> <p>○社会に関わりたいと考えている人は多数いるはずであり、こうした人を刺激するような取組が重要ではないかな。</p> <p>○強い思いを持ってソーシャルビジネスに取り組もうと考えている人を支えるため、大手企業のOBなどマネジメント力のある人材とのマッチングを行うことも重要ではないかな。大きな組織で活動、マネジメントした経験は事業を継続する上で非常に役に立つノウハウとなる。</p> <p>○ソーシャルビジネスに取り組もうとしている方、既に取り組んでいる方と、工業や商業、情報通信産業など色々な業種の方が出会える場を作ることで新しいアイデアが生まれたり、相互に良い刺激が生まれたりするのではないかな。</p>

# 平成29年度 中小企業活性化施策の実施状況に関する主な意見

検証対象施策	主な意見
13条 連携の促進	
5. 知的財産戦略の推進	<p>○国にも注目されるなど既に十分な取組を進めているが、今後新たな展開を図るために例えば業種やテーマを絞り込んでみてはどうか。</p> <p>○これまでも十分にコーディネーターを派遣してきている中で、今年度のコーディネーター派遣回数が増える予定というのには努力していると言えないのではないか。</p> <p>○知財スクールについて、毎週出席するとなると難しいのではないか。参加しやすいように工夫する必要がある。</p> <p>○中小企業と大企業のマッチングを行うだけではなく、お互いに広くアイデアを出し合ってもおもしろいのではないか。</p>
14条 研究及び開発の支援	
6. ものづくり中小企業 経営革新等支援事業	<p>○補助金について、申請件数が多いことから周知が図られていることが見え、また交付件数が少ないことから審査が厳正なことも分かる。国ではなく市の規模だからこそ行える行政ならではの取組だと言える。</p> <p>○現在はものづくり企業との連携を図っているICTについて、いずれは全ての産業に関わってくるものと思われる。ICT活用で何が得られるかが見えれば、例えば建設業でも活用しようと思うようになるだろう。そのような啓蒙活動も重要である。</p> <p>○現在はIoTという言葉が一人歩きしていると感じられるので、イベント等による継続して周知していく必要がある。今後プロジェクトが具体化してくれば幅広く浸透していくのではないかと。</p> <p>○ICTコーディネーターについて、例えばスポット的に複数人配置することで幅広い意見を聴取できるのではないかと。</p>
7. 医工連携等推進事業	<p>○医療分野への参入は規制の問題から時間が掛かることから、規制の対象とならない、注射の練習器具など、医療用の教材の様な分野から参入するもの参入しやすいのではないかと。市内には看護短大もあり、連携することにより、可能性も広がると思う。</p> <p>○プラモデルのタイヤを作る企業が人工皮膚の分野に参入したという事例も聞いたことがある。思いもよらない企業に可能性があることもあることから、セミナー等の広報の対象の裾野は、先入観にとらわれず広げることが良いと思う。</p> <p>○医療分野で最終製品まで製造するのはハードルが高いことから、中間財からの参入に取り組むのが良いのではないかと。</p> <p>○病院や福祉施設の現場のニーズを十分聞くことが重要であり、病院との連携を深めてほしい。</p> <p>○展示フェアを川崎でも開催してほしい。市内企業が展示に触れる機会を作ることで市内企業にとっても良い刺激となる。</p>

# 平成29年度 中小企業活性化施策の実施状況に関する主な意見

検証対象施策	主な意見
15条 経営基盤の強化及び小規模企業者の事情の考慮	
8. ものづくり中小企業 販路開拓支援事業	<p>○テクニカルショウヨコハマへの共同出展は、団体・企業が連携してみんな で盛り上げようとの機運が高まった。また、市内と言っても知らない企業もいた ため、情報交換を行うことができ、効果が高かった。</p> <p>○単独出展と異なり企業負担が少ない点に加え、今後、単独出展を目指す 上での登竜門的な活用がされており、有効である。</p> <p>○海外展示会への足がかりになるような支援も必要ではないか。</p> <p>○がんばるものづくり企業応援補助金における出展補助について、ビッグサ イトで開催される展示会はたいてい出展料が高額のため、中小企業にとつて は負担感が大きい。補助金交付は有効な取組である。</p> <p>○特許や実用新案・商標登録の出願といった費用についても支援してもら えるとありがたい。</p>
9. かわさきブランド 推進事業	<p>○認定件数が増えてきたので、ブランド認定製品・技術の露出を高める第2 ステージに上がっても良いだろう。企業・市民の目に触れる機会を増やせば 良いのではないか。例えばブランド認定に係るストーリーを何かの機関紙に 掲載してはどうか。成功事例を紹介することで、次は自分もやってみようと思 う企業が出てくるだろう。</p> <p>○ネット販売にも取り組んでどうか。</p> <p>○目に付きにくい技術のPRにも取り組んだ方が良いのではないか。</p> <p>○ブランド認定事業そのものをPRし、かわさきブランドのブランド力向上を目 指すことも必要である。</p>
10. 農業振興関連事業 (多様な連携推進事業等)	<p>○若い人材が取り組みやすい環境を作っていくことが重要。</p> <p>○飲食業からの視点では、珍しい食材、地元の食材はぜひ使いたいと思っ ているが、ある程度の期間、ある程度の量が手に入らないと利用しづらい。</p> <p>○農業フォーラムは安定化、定着化しつつある印象があり大変良いと思っ たが、交流の次のステージに進めることが必要となってくる。連携部会よりもさ らに少人数で意見交換できる場を作るとよいのではないか。30人でも多い印 象。</p> <p>○情報通信産業との連携をもっと広げてほしい。今のICT化の先の新しい モデルを作っていくことを目指してほしい。</p> <p>○大手企業が植物工場に参入しており、こうした動きとも連携し、IT化を進 めるとよいのではないか。農業分野でのIT化は急速に進んでいくと考えられ る。ハウス栽培もあつという間に広まった。</p> <p>○農業者の方が作ったものの販売の機会をもっと広げてほしい。商店街、 スーパー等でアンテナ的に発信、販売する場を設けることで生産者のやりが いが大きくなるのではないか。</p> <p>○早野地区でのグリーンツーリズムの取組を拡大してほしい。地方の宿泊で のツアーもあるが、都会の立地を活かした日帰りでのツアーの充実を図るこ ともできるのではないか。</p> <p>○香港の富裕層は、農家ででの宿泊、草刈り体験などをとても喜ぶ。農家レス トランや農園レストランの整備などと合わせ、観光の有効なコンテンツにもな るのではないか。</p> <p>○早野地区での農地の維持にあたり、ボランティア活動と有効に連携すると よいのではないか。</p> <p>○オランダは国土が非常に狭い(九州と同程度)が、農産物の輸出額が世 界第2位である。海外の取組事例を調査することも有効ではないか。</p> <p>○健康志向の高まりと合致した農作物の高付加価値化を図ることも有効で はないか。低カリウムの野菜など、ニーズは高い。</p>

# 平成29年度 中小企業活性化施策の実施状況に関する主な意見

検証対象施策	主な意見
16条 地域の活性化の促進	
11. 商業振興関連事業 (商店街課題対応事業等)	<p>○市内での横の連携を深め、まちづくり局で推進しているリノベーションスクールとコラボしてはどうか。</p> <p>○LED街路灯はかなり設置されていると感じる。</p> <p>○カワサキハロウィンについて、商店街が品物を提供するのみならず、市民と一緒に騒げるようになるのではないかと良いのではないかと。発信地として他所とは異なる取組ができると良い。</p> <p>○商店街を盛り上げるようなコンテンツの育成に取り組んでいきたい。ハロウィンも当初はこんなにうまく行っていなかった。</p> <p>○クレジットカード等手数料の特別割引について、決済手段の電子化はアジアの方が進んでいる。商店街も最新テクノロジーの導入にも取り組んでいった方が良いのではないかと。</p>
12. 内陸部操業環境 保全対策事業	<p>○がんばるものづくり企業操業環境助成制度は、企業誘致の観点でも有効な取組だと感じる。</p> <p>○ものづくり企業が集積し、企業間の繋がりによって事業が成り立っている側面もあり、企業が抜けていってしまうことで事業が成り立たなくなる企業も出てしまう。元々立地していた企業が追い出されないような支援を行ってほしい。</p> <p>○製造業でも飲食業でも、地域の方に仕事の内容を知っていただくこともとても重要だ。</p> <p>○地域の子どもたちに地元の会社(製造業や飲食業等)がどのような仕事をしているのか伝えることは、将来の後継者や人材の育成・確保の観点からも役に立つ取組だと感じる。オープンファクトリーに参加したことをきっかけにその企業に就職した高校生や、飲食店での実習に参加した地元の中学生が料理人に強い興味を持った事例などもある。</p>
13. 観光振興事業	<p>○VRを活用した工場夜景の疑似体験ができたらおもしろいのではないかと。</p> <p>○他都市との連携に取り組んだのは良い。川崎独自で集客を図るのではなく、面で捉えることが重要。</p> <p>○東北地方は勇壮な音楽と美しい映像にて東北の魅力をPRする動画をYoutubeにアップしており、それを見た外国人が殺到しているそうだと。メジャーアプリやミシュランガイド等の既存媒体を活用するなど、PR方法を考えると良い。</p> <p>○教育旅行の誘致について、観光だけでなく企業訪問や面談体験等と組み合わせれば、中小企業の集積をPRできるほか、市内企業の外国人雇用にもつながるのではないかと。</p>
17条 人材の確保及び育成	
14. 雇用労働対策・ 就業支援事業	<p>○若年無業者への支援は行政として取り組むべき課題だと感じる。</p> <p>○中小企業は単独で採用活動を行うことも難しく、合同就職説明会も必要な事業だと感じる。</p> <p>○ワークライフバランスの推進や働き方改革という課題に対し、中小企業の経営者からは、どのように取り組むべきか、どのようなことができるかが見えていない。業種ごとにどのようなことができるかが見えるようにしてほしい。また、業種ごとに成功事例を1つ生み出し、広げてほしい。</p> <p>○同じ悩みを持つ企業が集まれる環境を作ることも重要ではないかと。</p> <p>○ワークライフバランスや働く意識を小さいころから学ぶ機会を作ることも重要だ。</p>

# 平成29年度 中小企業活性化施策の実施状況に関する主な意見

検証対象施策	主な意見
18条 海外市場の開拓等の促進	
15. 海外展開関連事業 (海外販路開拓事業等)	<p>○会議所のインドミッションに約30名が参加したが、インドでは現地に行き、現地の方と話してはじめてわかったことが多くあった。東南アジアと陸続きではあるが、東南アジアとは一緒に見ないでほしいとの話だった。空気、水の汚れも深刻であり、川崎の強みが役に立つと感じた。</p> <p>○市内企業が海外展開についてどのように考えているか把握することも重要だ。会議所では前回の調査から10年が経過したことから、来年度、市内企業の海外展開ニーズの調査を行う計画だ。</p> <p>○環境技術展等を通じ、駐日大使館との繋がりができているが、より強固な関係を作っていくことが重要だ。</p> <p>○海外関連の支援は、インバウンド・アウトバウンド共に、他の事業との組み合わせ、連携を図り、事業間に横串を指すことが重要だ。アウトバウンドでは、知的財産の保護が必要不可欠であり、知的財産戦略事業との連携が重要だ。インバウンドでは、KBIC・NANOICをアジアの企業に使ってもらう視点も重要だ。中国・シンセンは、海外から多くの企業が集まる環境を作っている。ものづくりブランドの海外展開の視点も必要だ。</p> <p>○アジアだけではなく、欧米に視点、ウィングを広げるのは重要であり、ドイツの展示会での商談会の実施は良い取組だ。海外のVCとの連携に取り組むのも重要だ。</p> <p>○インドのほか、中国では内陸部の都市など、ネクストマーケットとなるエリアをターゲットにして取り組む視点も重要だ。</p>
19条 受注機会の増大等	
16. 受注機会の増大等	<p>○積極的に取り組んでいると評価しているが、土木工事については入札案件がほぼ100%くじ引きとなっている。公平性・透明性・公正性の確保が重要なのは理解できるが、運頼みというのはいかがか。</p> <p>○働き方改革を進める中で、建設業では契約工期とコストが大きな問題となる。例えば日給・月給従業者は日数が減れば給与が下がってしまう。一方で工事日数を増やすとなるとコスト増となってしまう。これらの構造をいかに変えていくか、民間企業でも検討するが、企業努力だけでは解決できないため、行政にも検討してもらいたい。</p> <p>○工事については取組が進められているが、物品や役務の業務についても取組を進めてほしい。</p> <p>○指定管理者の中小企業への発注状況についてもデータを知りたい。</p>